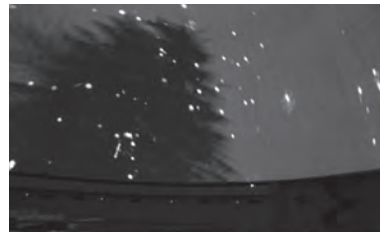


キラリ
★ 中野のチカラ

荒井 瑞貴さん 【東吉田】



プラネタリウムで地域の冬の映像を楽しんでもらいたい

博物館のプラネタリウムで2月28日(日)まで「冬の映像投影」と題し、メインの投影が始まるまでの間、冬をテーマとした映像投影が行われています。今回は、この冬の映像投影の映像作成を担当し、映像作家のほかに、漫画家やカメラマン、花卉農家として活躍する荒井瑞貴さんにお話を聞きました。

○活動の紹介

もともと、絵や漫画に興味があり、美術の専門学校を卒業してから漫画家として活動していました。現在は、講談社の代理原稿の漫画家として活動しています。

また、平日には市内でシャクヤクなどを育てているほか、毎週土・日曜日にはブライダル会場のカメラマンとしても活動を行っています。カメラを学ぶ中で、映像の作成にも興味を持ち、地域の中学校から依頼があつて、動画教材の作成もさせていただいています。自分のできることが誰かの役に立てることに、楽しみと喜びを感じています。

○映像投影を作成したきっかけ

冬の映像投影は、今回で2回目になるのですが、一番最初はプラネタリウム側で地域の冬の映像を投影し

たいとの話から始まりました。その際、映像を撮影・編集できる人を探している中で、偶然私の友人がそのことを知り、私が紹介されたことが映像投影を作成することになったきっかけです。

初めは紹介を受けてとても驚きましたが、新たなことにチャレンジできる良い機会だと思い、依頼を引き受けることにしました。撮影から編集までを行い、私が好きな中野市の風景を取り入れさせていただいたので、皆さんにも地域の冬を感じていただければと思います。

また、この映像投影の音楽は、市内酒店専務の水橋謙さんに提供いただいているので、視覚だけでなく素晴らしい音楽にも、ぜひ耳を傾けてみてください。

○市民の皆さんへ

今回作成させていただいた冬の映像投影は、中野市でしか見ることができないものです。なので、プラネタリウムを訪れた際に、メインの投影だけでなく、もう一つの楽しみみとしてご覧いただければと思います。

私自身、この地域がとても好きなので、この映像投影を通して、プラネタリウムを訪れた方にも、より一層この地域を好きになっていただきたいです。また、これからのような機会があれば参加させていただき、微力ではありますが地域に貢献していきたいです。

中野市合併10周年記念

広報クイズ



■今月のプレゼント

「信州中野みそ・醤油詰め合わせ」

…2人

問題

子育て支援センターの平成26年度の利用者数は？

「●万●●●●人」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 2月26日(金)必着

※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 子ども議会に参加した児童の人数は？ 答え・・・「78人」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課

秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・電話番号・世帯主

市民リレー元気の輪

No.18

土屋志郎さん
からのご紹介



○自己紹介

お嫁に来てから50年以上、農業をしています。リンゴを中心に、プラムやブルーベリーなど果樹のほか、米や野菜を栽培しています。農業は手を掛ければ掛けるほど良い物ができ、とてもやりがいを感じています。

また、豊田農産物加工施設利用組合の味噌部に所属し、仲間と栽培した大豆など地場産の原料を使った無添加でやさしい味わいの味噌を作っています。味噌部では、漬物など新商品の開発にも力を入れています。

昨年、16年ほど務めた保護司を退任しました。保護司とは、犯罪や非行をした人に対して、更生を図るための約束ごとを守るよう指導したり、生活上の助言などを行い、そ



津金 あい子 さん (替佐)

の立ち直りを助けることが役割です。保護司を務めていた間は、勉強や研修を重ね、一人ひとりと向き合って親身になって話を聞いてあげることがを心掛けていました。自分が関わり



▲農作業をする津金さん夫婦

を持った人が更生して真面目に生活している姿を見ることができるとは、とてもうれしいものです。

○元気の秘訣

農作業で体を動かし、食べ物は無添加の物を意識して選んでいます。そのおかげか、夫も私も薬一つ飲みずに健康で暮らしています。

また、農業改良普及センターと一緒に農業の勉強をした仲間とは30年先の付き合いで、年に数回集まっては旅行や温泉に行ったり、おしゃべりをして元気をもらっています。

○おらほの自慢

武田信玄により築城されたと言われる替佐城址は、春にはたくさんの桜が咲き誇り、秋はその紅葉がとてきれいです。また、山裾の菜の花やヒガンバナも季節ごとに美しい彩りを見せてくれます。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 29



地域の元気はひとづくり

碩学といわれた安岡正篤は物事の考え方として、以下の三点を挙げています。①目先で見るとは長く長い目で見る、②一面で見るとは多面的にみる、③枝葉末節で見るとはなく、根本的にみる。

今、人口減少、少子高齢化が地域社会の大きな問題となっており、それに伴う様々な課題解決が求められている。中野市の平成17年と平成27年の10年間の人口と世帯数を比べてみると、人口は4万6788人から4万3900人へ2888人減少した一方、世帯数は1万4591世帯から1万5275世帯へと684世帯増加(ともに国勢調査数値)となっている。単身世帯やお年寄りの一人暮らし世帯が増えていると推量されるが、地区別にみると、その変化は様でなく、人口と世帯の両方が増えている、人口が減少し世帯が増えているといった3つに分類される。

で、将来を見通し有効な種々政策を展開することが必要と思う。地方創生総合戦略は人口減少と東京一極集中に歯止めをかけ、活力ある地方を創りあげることが目標としているが、市内の地区別にも変化変容の違いがあり、政策展開に当たってはよりきめ細かな対応が必要となる。その意味でも地域の人が自らの地域・地区づくりに取り組む仕掛けが必要だと思う。広域かつ連携を基本にわが地区だけを見つめるのではなく、より広い視野でわが町、わが地区をどうするか、冒頭に掲げた視点から取り組むことが必要であり、そこに機動を掛けることが地域づくりの源となると思う。そのためにもひとづくりは欠かせない。

中野市は域外から見た場合、その自然環境、文化的土壌、バランスのとれた産業構造、域外への交通の至便性など、居、食、住の条件が揃ったまちであると私は思う。中野市版「住みよさで選ばれるまち」となる総合戦略のキャッチフレーズである「住みよさで選ばれるまち」となるためにも、私たち自身がまず行動に移すことにこそ鍵があり、そうした志ある皆さんとともに、まちづくりに励みたいと思う。